

産科医療補償制度 第94回原因分析委員会 議事要旨

日時：2020年6月10日（水） 16時00分～17時50分

場所：公益財団法人日本医療機能評価機構 会議室

出席者（委員）：石川浩史、茨聡、上塘正人、川田綾子、楠田聡、佐藤昌司、
下屋浩一郎、鈴木俊治、鈴木利廣、関沢明彦、高田昌代、豊田郁子
前田津紀夫、馬目裕子、宮澤潤、村越毅、吉田幸洋（敬称略）

議事概要：

1) 原因分析委員会における報告書の確認・承認状況等について

○2020年5月末時点で累計2,631件の原因分析報告書が承認されたことが報告された。また、コロナ禍により原因分析部会の延期等の影響が生じたものの、Web会議の実施、専用システムやメールを通じた修正・確認等により、原因分析報告書の作成にできるだけ遅れが生じないよう方策が講じられたこと等も報告された。

○同一分娩機関での複数事案目の原因分析の結果、同じ診療行為等において医学的に厳しい評価が繰り返された場合に一層の改善を要請する「別紙（要望書）」対応について、2020年5月末時点での実施件数は94件であり、改善要望を行った項目としては「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」が一番多かったこと等が報告された。

2) 原因分析報告書全文版（マスキング版）の開示および原因分析のデータ等を活用した研究等の状況について

○原因分析報告書全文版（マスキング版）については、前回の原因分析委員会での報告以降の新たな利用申請はなく、開示方法を変更した2015年11月以降2020年5月末までに9件の利用申請で延べ1,539事例の報告書を開示したこと等が報告された。

3) 部会審議における確認事項等

○原因分析において、審査委員会が用いた頭部画像の読影所見を参照する場合は、審査と原因分析とではその位置づけが異なることを理解したうえで利用するものとし、臨床情報など別の視点からの原因の絞り込みや、必要に応じて、画像読影担当の原因分析部会委員による再読影も行い、原因分析を進めていくことが確認された。

4) 原因分析報告書要約版の公表について

○原因分析報告書要約版は、保護者や分娩機関等に対し公表についての意思確認を行い、不同意の意思表示があった事例を除いて、順次、本制度ホームページで公表されるが、2020年4月末までに報告書を送付した2,608事例のうち、2020年5月末時点での公表事例は74.9%にあたる1,953事例であること等が報告された。

○今後の要約版公表のあり方について、全件一律公表していく方針が全会一致で支持された。また、要約版の記載内容の見直しについては、施設区分として事例数の少ない「助産所」を出産場所として明記するかどうか継続審議となったが、出生体重や臍帯血ガス分析データ等の記載方法の変更が承認された。

以上